



塚本勇人社長が開発した瓦製のコップ=9日、袋井市の瓦粋

# 瓦製コップに 伝統技法の粋

## 袋井の屋根業者製作

# 「触れるきっかけに」

衰退傾向にある瓦文化の継承を目指し、袋井市の瓦ぶき屋根工事業「瓦粋(かわらいき)」が瓦製の食器をこのほど開発した。伝統の「燻(いぶ)し瓦」の製作技法でコップを完成させ、塚本勇人社長(55)は「失われつつある瓦の魅力に触れるきっかけづくりをした」と意気込む。

(袋井支局・伊藤龍太)

同社によると、燻しが普及する一方で、粘土瓦の出荷量は1970年代前半のピーク時に比べ、近年は盛期の1割ほどにとどまっているという。

特に燻し瓦は顕著で、塚本社長が4年前に多くの人々に瓦に触れる機会を増やそうと食器の開発を思い立ち、販売にこぎ着けた。

コップの容量は250ミリで高さ11センチ。粒子の細かい淡路島産の土を使用した。瓦は熱が伝わりにくく、一般的な食器より保温性に

は同社へ電05338(43)86624へ。